

# CENTENARY

2009. 6. 25  
第 28 号  
兵庫県立加古川西高等学校



文武両道による人格の形成

## 文化祭 まじり方

第60回文化祭が、6月19日(金)・20日(土)に開催されました。節目にふさわしい新しい取り組みとして、「クラスごとのテーマの設定」、「販売部門の復活」、「クラス旗コンテスト」、「クラスステージ二日間公演」等を企画してまいりました。



モザイク写楽2の1

例年以上の内容で燃え上がり、充実した感動的な文化祭となりました。一般公開日は天気にも恵まれ、千四百名を超える来場者をお迎えして、校内も賑わいました。

中止されたのは「クラス旗コンテスト」、「クラスステージ二日間公演」等です。さらに、準備期間短縮のあたりも受け、多くのクラスに焦りやとまどいの場面が見られましたが、日ごとに結束力も高まり、当日はむしろ



巨大アート 竜 1の6

## 外部団体参加

今年と同窓会の先輩方から、絵画・書道・写真の出版がありました。中でも大臣賞受賞作品が圧巻でした。

恒例の「つつじの家」の方々による出店もあり、80名の方にご参加いただきました。パンや手芸品など、心のこもった手作りは人気があり、すぐに完売しました。文化祭をご案内させていただいた福祉委員も多くのことを学ぶことができました。

昨年度、好評だった育友会の模擬店ではフランクフルトを販売しました。また、制服リサイクルも行われ、その売り上げは学校に寄付されています。



裏方の演劇部



## 校内発表

一日目は文化部によるステージ校内発表を楽しましました。吹奏楽部、合唱部、邦楽部による演奏は生徒になじみのある曲からコンクール参加曲まで様々なバリエーションを披露してくれました。教師の飛び入り参加もステージ発表を盛り上げました。演劇部は文化祭を素材にした部員による創作「IF」で、総合芸術の形を通して、前向きな人生観や愛について語りかけました。

**ちょっと一言** 前号の続きです。昔は15歳にもなれば成人とみなされる風習がありました。橋本左内先生が15歳の時に、社会人として自立していく心構えを「啓発録」として書き残されています。全部で五つあります。学問を励むためのその1、「**稚心を去る**」。幼き心を捨てなさいということです。つまらぬ遊びやテレビに夢中になり、親の目を盗んで勉強や仕事を怠り、親に甘え、その背中に隠れるようなことをやっていたのでは、何をやっても上達することはできない。稚心を捨てなければ、奮発心が起こらず、いつまでも腰ぬけの人間でいなければならない。